

# 序

管理栄養士・栄養士は、栄養学の知識を用い、食事を通じて人びとの健康の維持・増進を支える専門職として、医療・福祉・教育・行政など、さまざまな分野で活躍しており、さらなる活躍が期待されています。栄養教育は、対象者の行動変容を促すための重要な手段であり、科学的根拠に基づいた指導技術と、対象者の理解に応じた柔軟な対応力が求められています。

本書は、栄養士・管理栄養士養成課程において、栄養教育の理論と実践を体系的に学ぶことを目的として編纂いたしました。教育学や教育心理学、行動科学の視点をも取り入れ、教育、栄養教育マネジメント、指導計画の立案、教材や学習形態、評価方法など、現場で必要とされる知識と技術について解説しています。

学校給食の現場では、給食の提供と食教育を組み合わせることで、児童・生徒が自らの食習慣を振り返り、栄養素バランスについて考える活動を通じて、生涯にわたる食への関心を高める一助となります。このように、栄養教育は単なる知識の伝達にとどまらず、生活の質の向上にも寄与することが含まれています。

本書では、学生が栄養教育の理論を基礎から正確に学べるように、図表を豊富に盛り込みました。将来、管理栄養士・栄養士として多様な現場で活躍するための基盤づくりとして、本書が役立つことを願っております。

最後に、本書の編纂にあたり、共同編者である岡崎光子先生には、企画段階から内容の検討、原稿の執筆・校正に至るまで、多大なるご尽力を賜りました。先生の豊富な知識と経験に基づくご助言は、本書の質を高めるうえで大きな支えとなりました。また、本書の執筆にご協力いただいた関係者の皆様にも、心より感謝申し上げます。とりわけ出版に際し、羊土社編集部の今城葉月氏ならびに中川由香氏にも多大なるご助力を頂戴しました。関係各所の皆様にも、ここに記して厚く御礼申し上げます。

2025年11月

編者を代表して  
辻 雅子